

第22回 くまもとアートポリス推進賞



K U M A M O T O A R T P O L I S

第22回 くまもとアートポリス推進賞の選考を終えて

選考委員長 北野 隆

「くまもとアートポリス推進賞」は、くまもとアートポリス事業の一環として、「質の高い優れた建造物を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上、併せて豊かな地域づくりを図ること」を目的に、1995年より行なわれている事業です。2016年度は、4月の「熊本地震」で、事業は実施されませんでした。本年度は、県内の建築家などの要望により、第22回として実施されました。

今年度の「くまもとアートポリス推進賞」には、総数35点の応募作品がありました。応募作品の用途は専用住宅、町営団地、病院、保育所、博物館、放送局など、建築構造も木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造など、規模も大小さまざまでした。

第1次選考の書類審査は、全作品の事業主・設計者・施工者などを隠した上で、選考委員（7名）が各自の持点（10点）をA（3点）・B（2点）・C（1点）の3段階に分けて評価しました。

各選考委員の評価を集計しますと、作品はやや分散した結果になり、点数の上位から順に討議し、第2次選考の現地審査作品が選出されました。

現地審査では、設計者へ建築のコンセプトや構造など、事業主には建築の使い方などについて質疑応答がなされました。現地審査では、第1次の書類審査では把握できない周辺環境との調和、建築空間の取り扱い、建築素材の感触などが体験できました。

「くまもとアートポリス推進賞」の大きな特徴は、事業主・設計者・施工者の三者を表彰するところにあります。質の高い優れた建造物を造るには、三者が一体となって協力することが必要です。

本年度の「くまもとアートポリス推進賞」は、最終的には「推進賞」として「わかたけ保育園」・「再春館製薬所体育館サクラリーナ」の2作品、「推進賞選賞」として「SA-HOUSE」・「GALLERY FLOWER GARDEN」・「熊本県民テレビ新社屋」の3作品が選ばれました。

これら5作品については、選考委員の先生方が詳細な講評を述べられていますから、ご覧下さい。

また、これらの5作品について、私なりにそのデザイン手法を分類すると次のようになると思われます。

- 子供にやさしい木造にこだわり、ガラス戸など細部まで手作りデザインにした暖か味のある作品
「わかたけ保育園」
- 周辺の環境を考慮しながら、建築部材をできるだけ小さく、全体を水平・垂直にして軽快さを表した作品
「再春館製薬所体育館サクラリーナ」
- 建築の構造材をそのままデザインに利用した簡潔な作品
「SA-HOUSE」
- 古い敷地・町屋の魅力を生かしながら、現代風に設計した作品
「GALLERY FLOWER GARDEN」
- 大きなボリュームの建築を機能的にコンクリート打放し・ガラスカーテンウォール・アルミスパンドレルで三分し、それぞれは周りの風景を考慮しながら軸線を変えるなど、動きを表した作品
「熊本県民テレビ新社屋」

本年度の「くまもとアートポリス推進賞」は、「熊本地震」にもかかわらず、35点という多くの作品が寄せられました。これらの作品中、特徴的なものは、北は阿蘇郡小国町、南は人吉市、西は天草など、県内各地から応募があり、この事業の県内への浸透が察せられました。



わかたけ保育園



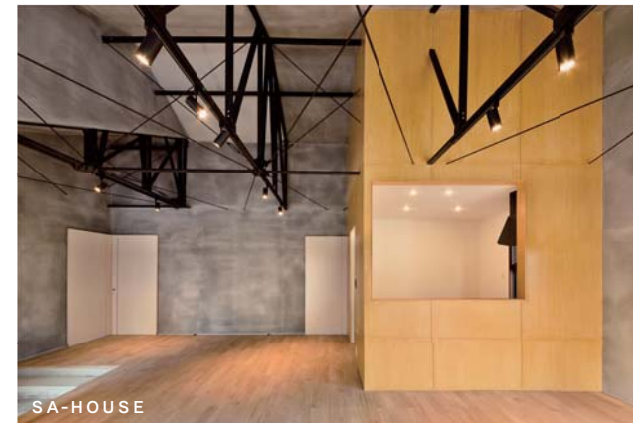
再春館製薬所体育館サクラリーナ

くまもとアートポリス推進賞

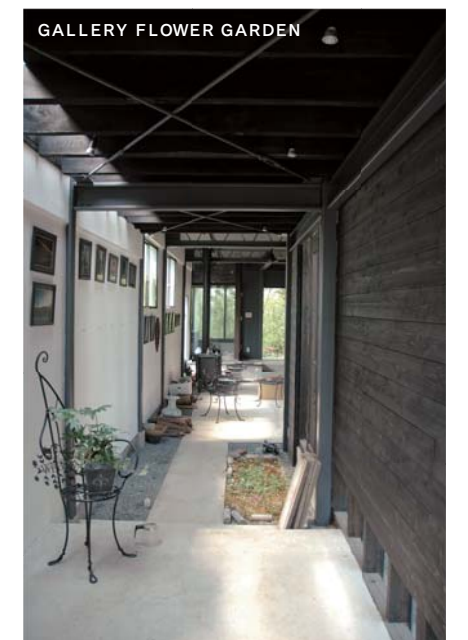
わかたけ保育園	03
再春館製薬所体育館サクラリーナ	04

くまもとアートポリス推進賞選賞

SA-HOUSE	05
GALLERY FLOWER GARDEN	06
熊本県民テレビ新社屋	07



SA-HOUSE



GALLERY FLOWER GARDEN



熊本県民テレビ新社屋



くまもとアートポリス推進賞

わかたけ保育園

水俣の中心市街地から南方向、市道を折れた突当りにわかたけ保育園はある。細長い敷地の三方には田圃が広がり、長手方向に小さな水路が走り、山々の緑が望める。敷地形状に沿って縦に伸びる園舎は80m近い長さだが、平面の折れ曲がりや屋根形状、壁面線によって適度にボリュームが分節されて周囲に馴染んでいる。

建物を5棟に分けて耐火建築棟を適所に配置することで、保育室や遊戯室を内装制限のない架構あらわとし、木の香りに包まれた園舎を実現した。なかでも遊戯室は8寸角の柱が支える屋根架構が印象的な場所となっている。移動のためだけの廊下はなく、距離で空間を分節したプランニングで、小さな入隅が各所に仕込まれ子供の身体に寄り添い落ち着ける場所が用意されている。水路と田圃に開いた庇

下のテラスは保育室からすぐ出入りでき、日常の遊びや移動、休憩にぴったりな中間領域である。

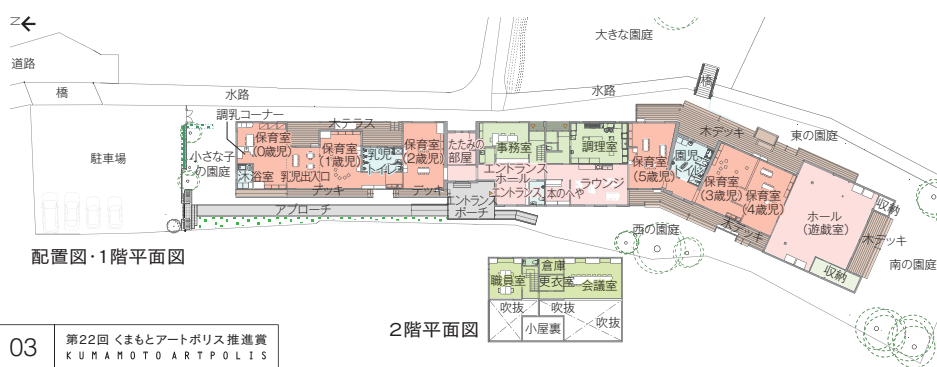
接着剤を極力なくすため合板を使わず、屋根下地はスギ無垢材パネル、壁は竹小舞土に漆喰、床はスギとリノリウム、家具はスギのはぎ材。その結果、主要構造部から内装、建具、家具造作まで素材と質感が統一され全体のまとまりをもたらしている。

この場に身をおいたとき、田圃の一面にいるような気持ちになった。それはこの保育所が周囲の環境とあまり変わらない空間の質でできていて、敷地のなかだけで、あるいは単体の建築物だけで完結してしまわない建築を実現しているからだと思う。

環境と建築の関係を見直す数多くの試みが、心地よい場として結実したことを祝いたい。(高橋 晶子)



事業主 社会福祉法人わかたけ福祉会
 設計者 篠計画工房
 施工者 坂田建設株式会社
 所在地 水俣市南福寺9-21
 竣工年月 平成28年5月
 用途 保育所
 構造 木造
 階数 地上2階
 敷地面積 2347.82㎡
 建築面積 730.19㎡
 延べ面積 685.69㎡



くまもとアートポリス推進賞

再春館製薬所体育館サクラリーナ

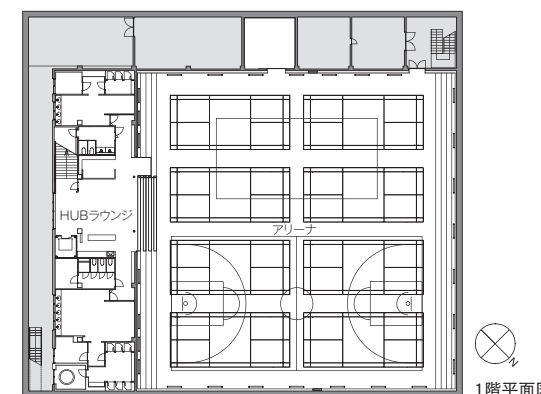
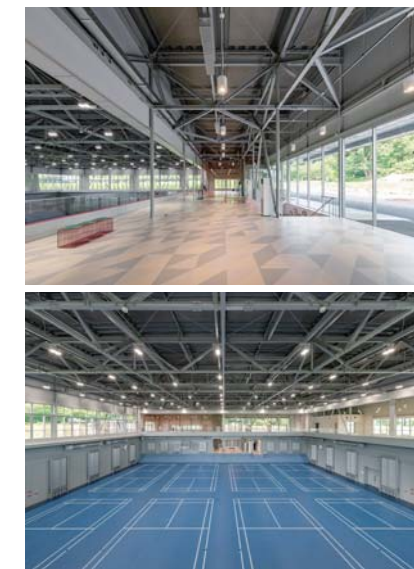
この建築の魅力は、必要最小限の手数でつくられていることだ。土地の起伏のなかに、板状の大屋根がこれ以上高くも低くてもいけない、ちょうどいい塩梅の高さに置かれている。よく手入れされた芝の起伏は滑らかで、そこに直角と平面からなる四角い板が水平に浮かばされると、かえって、周辺のおおらかな風景が際立ってくる。板の大きさも適切だ。体育館という、どうしても図体のでかくなる建築をどう風景のなかに置くのかがいいか、そのことに設計の力点が、まるでぶれずに設定されているのがよい。

構造が美しい。外から見たときの「板」の軽やかさが、内に入っても裏切

られない。それは明らかに、トラス材幅を150mmに抑えた格子トラスと、それを支える165mmφというスリムな柱と、リズムを持って配置されるアンボンドブレースからなる構造に依るものだ。銜いなく、縦横に等間隔で走るグリッドを基準とした、清潔な平面・断面計画になっている。

敷地は、空港からやや熊本市内に近づいたところにある。しかし、その風景はどこか、野焼きされた阿蘇内輪山の景色とつながっている。このプロジェクトは、「熊本らしさ」のひとつである、その雄大な風景に見あった建築のつくり方を提案していると言える。

(青木 淳)



事業主 株式会社再春館製薬所
 設計者 株式会社リズムデザイン+キトレベ建築設計事務所
 施工者 大成建設株式会社九州支店
 所在地 上益城郡益城町寺中1363-1
 竣工年月 平成29年6月
 用途 体育館
 構造 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造
 階数 地上2階
 敷地面積 235181.68㎡
 建築面積 2591.88㎡
 延べ面積 2766.86㎡

SA-HOUSE

「限られた予算」が条件の築20年の平屋住宅の改築である。

書類審査の時点で、条件から外観には手をつけず内部空間のみの改築であるのにダイナミックな空間が魅力的で、それを「暮らし」の場としてどう活用されているのか現地に行ってみたくと思った。

住宅街の中で「SA-HOUSE」は20年の存在感で周りとも溶け込んでいた。玄関扉もそのまま。その扉を開けると、天井の鉄骨のトラスがむき出しの広いリビング空間が出現する。設計者から、このトラスを空間のシンボルとした経緯を聞く。天井裏の鉄骨のトラスが外壁面の柱で支えられていることがわかった時点で、天井板を撤去、余分な壁面も全てとるという引き算の作業の結果、トラスを活かした空間が生まれた。トラスは当初の鉄骨工事のまま、文字もそのままにして、あえて塗装することもせず斬新なブラック。広い面積の壁面と天井の塗装はグレーのモルタル風の漆喰。少し濃淡をつけたムラのあるアートの仕上げがトラスをより引き立てている。その男性的な色調にコントラストを作っているのが、木の風合いを残すサンドベージュが軽やかな各部屋への引き戸である。

その空間の中、ご主人手作りのヴィンテージのテーブル、お好みの椅子たち、アイアン使いの棚、キッチンに置かれたストーブの鍋などから甘さを抑えたシンプルな「暮らし」を感じた。

もう一つ、カーポートの半分に囲いを作って洗濯物干し場がある。百葉箱を連想させる壁板に思わず気持ちが和む。ここにも既存の物に少し手を加えた工夫があり、施主の要望に明快に答えた結果となっている。このリノベーションの過程の中で設計者と施主の高校生も含めたご家族のコミュニケーションが楽しい時間であったようで、これからの暮らしにまた新たな広がりをもたらしてくれそうだ。

(大野 郁子)

GALLERY
FLOWER GARDEN

夫妻は別地に居を構えており、妻の趣味はガーデニングと写真。妻が、松橋の実家を自身の趣味の家として改修することになったとのこと。

かつては商店の連なる通りであったそうで、熊本地震では、前面にあった店舗と後面にあった蔵が倒壊したが、その間にあった母屋は難を逃れた。

前面は地被類や低木による前庭に、後面は高木の後ろ庭にと、その間にギャラリー兼別宅が挟まれて、二つの趣味を持つ施主にとっては願ってもない配置である。また、母屋は昭和30年代の鉄骨造で、1階の間取りが変えやすかった。

前庭からのアプローチは、かつての店と母屋を繋いでいたであろう町屋の佇まいを思わせ、後ろ庭に面する土間は暖炉のある写真展示ギャラリーと一体となっている。

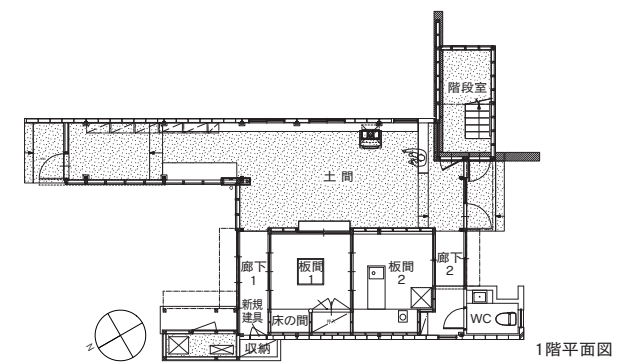
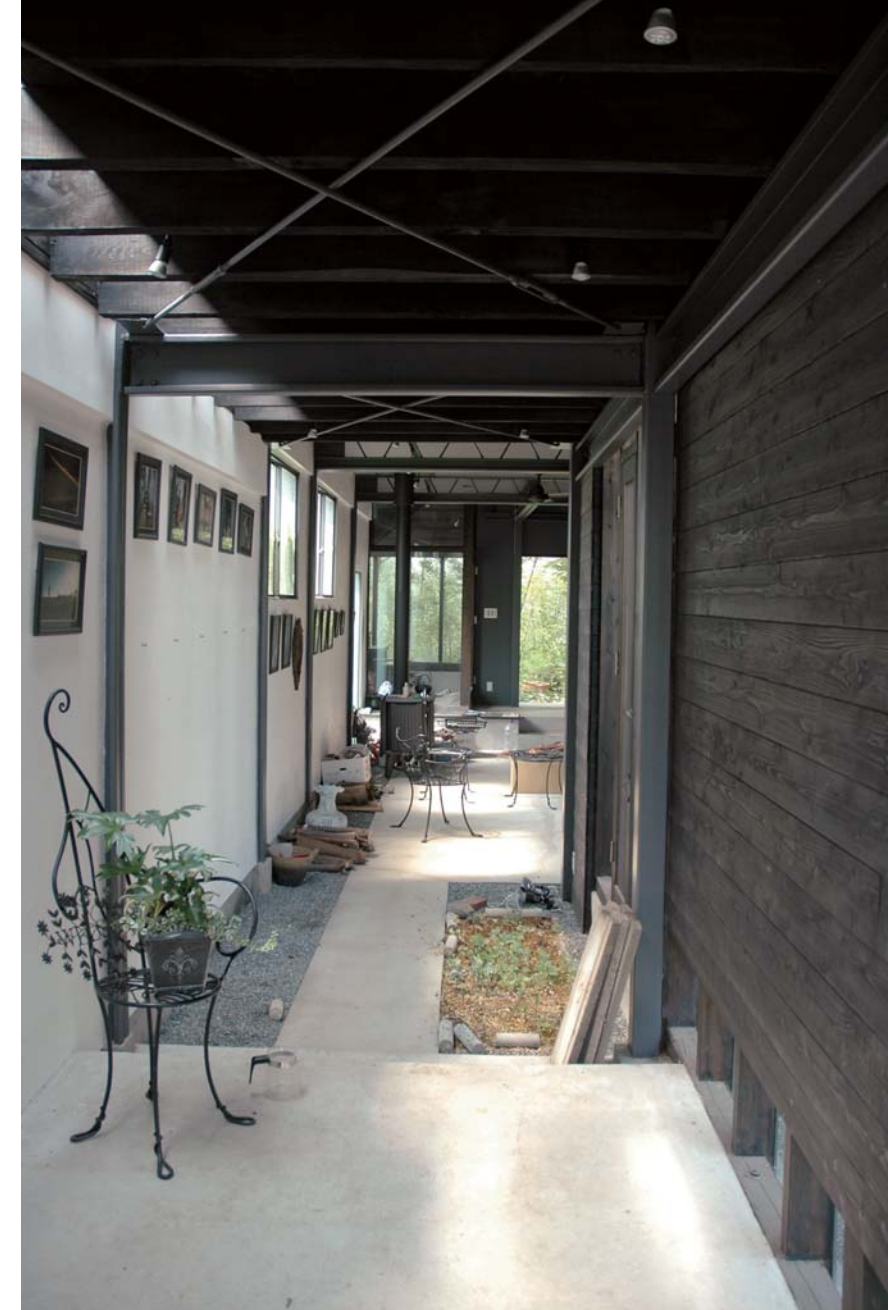
2階部分は、別宅のための最小限の機能とされているが、1階からの階段が移設され、後ろ庭を眺められるようになった。

施主によると、設計者と意見が90%以上合ったとのこと。それは、施主の思いや生活スタイル、趣味に寄り添った空間が生まれていることから窺える。

その意味ではインテリア+エクステリアが意匠をまとった建物とも言える。

しかし、一方で、足し算では無い建築の可能性もあったのではと思える。

(西嶋 公一)



事業主 匿名(個人)
 設計者 株式会社長野聖二建築設計處
 施工者 YAJIMA建築
 所在地 熊本市北区麻生田
 竣工年月 平成28年8月
 用途 一戸建ての住宅
 構造 鉄骨造
 階数 地上1階
 敷地面積 148.11㎡
 建築面積 82.11㎡
 延べ面積 82.11㎡

事業主 松浦さち
 設計者 株式会社ばん設計小材事務所
 施工者 株式会社ハウジング創
 所在地 宇城市松橋町松橋1142
 竣工年月 平成27年9月
 用途 ギャラリー兼用住宅
 構造 鉄骨造
 階数 地上2階
 敷地面積 497.00㎡
 建築面積 81.10㎡
 延べ面積 145.25㎡



くまもとアートポリス推進賞選賞

熊本県民テレビ新社屋

熊本地震の影響で二年ぶりの募集となった推進賞の審査なので楽しみにしていたところ、期待に違わず質の高い作品が多く寄せられた。しかし現地審査の道すがら、傾いた電柱や、落ちた陸橋、崩れた河川護岸、仮設住宅団地などを目にして、現実の厳しさを感じ、一日も早い復興を願わざるを得なかった。震災以前から着工されていたこの作品の現場にも、避難生活を余儀なくされた作業員が多く、一旦は工事を止めたという。旧社屋を使い続けることもできたが、地域のテレビ局として役割を全うし、熊本を勇気付けるためにも早期再開に踏み切ったのは発注者の英断といえる。そうした期待を背に完成した本作品は、地域のテレビ局が、業務を効率良く執り行うにあたって必要な仕様や、長く安定的に運営できる可変性に対する配慮が行き届いた、小気味いい建物である。いわゆる密閉されたスタジオはひとつだが、箱を積み上げたようなヴォリュームのあいだのテラスやバルコニー、エントランスホール、取材部のフロアなど、色々な場所に端子が用意され、建物全体を使って収録ができるのも楽しい。ガラス張りのエントランスロビーに接して

ゆったりした階段室を設けたのも、エレベーターを待つ間も惜しんで階段を行き来する社員の動きに気づき、見える化する面白い仕掛けである。製作と取材部を1階においたことで、搬入の利便性、記者の機動性が高まり、「番組製作施設」としてのテレビ局のあり方は最大化されている。ただその結果、窓の少ないコンクリートの箱が1階部分を占め、ガラスばりのエントランスホールが2階に配置されることになった。これは隣接する交差点まわりの植栽豊かな歩道や、前面道路に対して、お世辞にも友好的とは言えない構えである。見学のあいだ、社員の方々はこちらに気を取られるふうもなくキビキビと働いていたし、子供達が社会科見学に訪れている様子も自然で、開かれた仕事場であるという印象があっただけに、この構えの閉じた印象との差が気になった。セキュリティ上の難しさもあることは予想されるものの、地域のテレビ局としては、もう少し「まちの空間」として多様なメンバーシップのあり方を想像させる構えがあったのではないかというのが、私だけでなく審査委員一同が感じたことであった。

(塚本 由晴)



事業主	株式会社熊本県民テレビ
設計者	株式会社三菱地所設計
施工者	大成建設株式会社九州支店
所在地	熊本市中央区大江2-1-10
竣工年月	平成28年11月
用途	放送局
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造+鉄骨造+鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
敷地面積	5184.29㎡
建築面積	2684.09㎡
延べ面積	6305.95㎡

第22回(2017年度) くまもとアートポリス推進賞募集要項

趣旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市文化並びに建築文化の向上を図るとともに、文化の情報発信地としての熊本を目指して、優秀な建築家やデザイナーの才能・アイデアを結集し、機能面はもとよりデザイン面にも優れた、後世に残る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。その一環として、「くまもとアートポリス推進賞」では、建築文化に対する関心を高めるため、平成7年から県内各地の優れた建造物等を表彰しています。

表彰対象

概ね5年以内に竣工(改造、改修、修復を含む。)した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等(くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く。)とします。

選考基準

本章の選考は、建造物等の企画、設計、施工及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| ① ②～⑥の評価ポイントがデザインに反映され、優れているもの | ⑤ 地域づくりに寄与しているもの |
| ② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの | ⑥ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの |
| ③ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの | ⑦ 良好な施工が行われているもの |
| ④ 施設の活用に創意工夫がみられるもの | ⑧ 維持・管理が良好なもの |

賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。事業主(必要に応じて管理者を含む。)、設計者及び施工者を知事が表彰します。

応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

選考委員(50音順)

- 青木 淳(青木淳建築計画事務所代表)
- 大野 郁子(イラストレーター、JAGDA会員)
- 北野 隆(熊本大学名誉教授)
- 高橋 晶子(武蔵野美術大学教授、ワークステーション共同主宰)
- 塚本 由晴(東京工業大学大学院教授、アトリエ・ワン共同主宰)
- 西嶋 公一(オフィス・ムジカ代表、熊本県文化協会常務理事)
- 農 孝生(熊本日日新聞社編集局文化生活部次長兼論説委員)

選考経過

募集	平成29年 6月 1日(木)～ 7月31日(月)	応募件数35件
書類選考	8月 9日(水)	
現地審査	9月10日(日)～ 9月11日(月)	現地審査件数6件
最終選考	9月11日(月)	推進賞2件、推進賞選賞3件
表彰式	12月10日(日)	

くまもとアートポリス推進賞マップ

第1回 1995年度

- 1 小国町立西里小学校
- 2 東陽村石匠館
- 3 八代広域行政事務組合 消防本部庁舎
- 4 株式会社野田市兵衛商店 流通団地営業所
- 5 清和物産館(四季のふるさと)
- 6 荒瀬ダムポートハウス
- 7 出田眼科病院
- 8 尚玄山荘

第2回 1996年度

- 9 社会福祉法人 慈愛園ノーマンホーム
- 10 阿蘇白水温泉「瑠璃」
- 11 ふるさとセンターY・BOX

第3回 1997年度

- 12 久連子古代の里
- 13 養護老人ホーム八代市立保寿寮
- 14 水俣市営洗切団地
- 15 丸尾焼工房
- 16 人吉の写II/平井邸
- 17 浮島周辺水辺公園

第4回 1998年度

- 18 老人保健施設 かかみ苑
- 19 熊本県信用保証協会八代支所 HOUSE:H-M
- 20 水俣市保健センター
- 21 水俣市総合もやい直しセンター
- 22 古閑邸
- 23 聖母の丘
- 24 宮原町下宮はまどん公園

第5回 1999年度

- 25 水上村立湯山小学校
- 26 中央町総合交流ターミナル「石段の里 佐保の湯」
- 27 植柳新町公民館(地域学習センター)
- 28 シルワ・エッセ
- 29 50M-標の森美術館
- 30 宮崎耳鼻科
- 31 矢野邸

第6回 2000年度

- 32 やつしろハーモニーホール
- 33 城南の舎
- 34 中央町福祉保健センター「湯の香苑」
- 35 ネクステージビル
- 36 熊本YMCA 阿蘇キャンメインホール
- 37 セカンドサイト
- 38 霧の畜場

第7回 2001年度

- 39 荏原九州
- 40 K.Residence
- 41 つなぎ美術館
- 42 稗田の舎
- 43 ガレリアのある舎
- 44 chase
- 45 キューネット社員寮「希翔館」

第8回 2002年度

- 46 久野邸
- 47 立山山野外保育センター「雑草の森」
- 48 八代の町屋
- 49 いのうえデンタルクリニック
- 50 大野温泉センター

第9回 2003年度

- 51 熊本保健科学大学
- 52 I-HOUSE
- 53 熊本市現代美術館
- 54 UEDA.Residence



第10回 2004年度

- 55 九州新幹線 新水俣駅
- 56 S.W.H
- 57 田迎の家
- 58 東海大学付属第二高等学校
- 59 ひだまりのまち B4

第11回 2005年度

- 60 k-house in 近見
- 61 高瀬蔵
- 62 3 Towers
- 63 美里町立中央小学校体育館
- 64 玉名温泉つかさの湯
- 65 堀田眼科医院

第12回 2006年度

- 66 阿蘇の舎
- 67 nina Dental Clinic
- 68 西の久保公園
- 69 "B"-studio
- 70 永田歯科

第13回 2007年度

- 71 H-court
- 72 熊本学園大学14号館(60周年記念会館)
- 73 城下町の住宅
- 74 多良木町交流館石倉
- 75 グリーンツィードアンドカンパニー アジアエンジニアリングセンター
- 76 AI mall
- 77 コンパスポイント本社ビル

第14回 2008年度

- 78 障害者多機能型施設 高森寮
- 79 B-house in 島崎
- 80 ジャンブルジムの家
- 81 Chro-e#01 (クロイー#01)
- 82 ガーデンコートゆうかり
- 83 松木運輸株式会社
- 84 しらさぎおざや
- 85 済生会熊本病院外来がん治療センター
- 86 barn renovation

第15回 2009年度

- 87 畑の中の一軒家
- 88 川上酒店
- 89 I-CUBE#01(アイキュー#01)
- 90 光の森の住宅
- 91 桜木の家
- 92 R-House in 梶尾
- 93 YMCA赤水保育園
- 94 熊本市下通2・3・4番街アーケード

第16回 2010年度

- 95 道と暮らす家
- 96 天草文化交流館
- 97 C-HOUSE
- 98 芦北町立佐敷小学校
- 99 百年遺伝子の門
- 100 T-house in 高森

第17回 2011年度

- 101 熊本市医師会館・看護専門学校
- 102 高瀬
- 103 宮原邸
- 104 嘉島の家
- 105 田園住宅(篠崎邸)
- 106 I-apartment
- 107 松の湯
- 108 矢部の家
- 109 Shipな家

第18回 2012年度

- 110 行徳眼科
- 111 八代の家
- 112 護岸の家
- 113 器季家カフェ
- 114 阿蘇くまもと空港 国内線ターミナルビル
- 115 小規模多機能型居宅介護 ハイマートの郷
- 116 ユウハウス
- 117 House-Sim
- 118 土5 SEPPAN BOX

第19回 2013年度

- 119 大江の舎/親誼書房
- 120 T邸
- 121 風と共に
- 122 中九州クボタ本社・物流センター
- 123 南阿蘇原眼科
- 124 光影Archive/長洲の家
- 125 坪井の家
- 126 渡邊総合内科クリニック/高森わたなべ薬局

第20回 2014年度

- 127 沼山津の家
- 128 House F, nagamine
- 129 湯浦温泉センター
- 130 MA-HOUSE
- 131 供養普請の家(佐藤忠商店)
- 132 古代の風 黒の蔵 -多良木町埋蔵文化財等センター-
- 133 熊本市西区役所
- 134 旅館 心乃間

第21回 2015年度

- 135 Leeこどもクリニック
- 136 千丁の家
- 137 京町の家
- 138 T.house in 武蔵塚
- 139 33' 46' 48"
- 140 玉東町の家
- 141 第一幼稚園
- 142 南阿蘇の小さな診療所
- 143 薬味筆筒の家

第22回 2017年度





- 144 わかたけ保育園
- 145 再春館製薬所体育館 サクラリーナ
- 146 SA-HOUSE
- 147 GALLERY FLOWER GARDEN
- 148 熊本県民テレビ新社屋





熊本県土木部建築住宅局建築課

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1
Tel.096-333-2537 Fax.096-384-9820

くまもとアートポリス    

発行者:熊本県
所属:建築課
発行年度:平成29年度